

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

万富の家

日付 平成 20年 3月 31日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験9年

評価調査員 介護支援専門員経験6年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

今日のグループホームの外部評価訪問では、今まで経験した事の無いような、珍しい場面に私は出くわした。リビングルームの机の上には、本日の新聞が広げられており、始めは職員がその新聞の記事を話題として、皆さんに語りかけていた。「これ見て、今度はギョーザじゃなくて、スライスした冷凍サバから農薬が見つかったんじゃて。やっぱり中国製よ」ここから、話が弾む。「中国産は怖いなあ」「日本産でない信用出来んなあ」「何でもかんでも外国を頼りすぎるから、こんな事になるんじゃ」「日本の食糧自給率はすごく低くなっているそうですよ」「田圃は若いもんが作らんようになって荒れてしまうて」「うちらが、その通りなんじゃ」「情けない事になってしまつたなあ」「これから先、日本はどうなるんじやろうか」と、話を切り出した職員が用事で席を立ててもこの話が延々と続く。定年退職して野菜を作っている私の夫との会話と全く同じ内容だ。これが認知症を患う人達の会話なのかと一瞬疑うようだったが、主にその話題の中心人物だった00さんは、ひと時間置くと「どなた？何時来られたん？」となる。しかし、このホームの皆さんは、その瞬間・瞬間は生き活きとして、実に冴えている。気の利いたお喋り・先に先に思いつくお互いの気配り・洗濯物畳みの作業になったら6人の主婦があつという間に片付けてしまう要領の良さ。色々出来る人・出来る事が多いからこそ、職員の交通整理や色々な調整は必要だろうが、それにしても「問題は色々持ちながらも活力のある人」が多い。76歳から88歳という高齢の方ばかりではあるが、職員の陰ながらの支援でその人らしさがそれぞれに染み出ている。

開設から2年目を迎えて、直ぐ近くのグループホーム万富の郷の後を追う妹分のような存在のこのホームは、今、万富の家としてのスタンスを固めようとしている処と思う。管理者も交代して間もなく、「今は未だ、職員が気持ちをつにして進む事だけを考えています。これからです」と話す。今の処職員の異動も殆ど無く、気心が知れた良い仲間として、又、利用者とも馴染みの関係がしっかり出来ていて、順調な日々を送っている。「出来ない事・やりたい業務」等、いっぱい気にかかる昨今とは思うが、職員間で小さな手の届きそうな目標を立てて少しずつ前進して下さい。

特に改善の余地があると思われる点

短期記憶や認知症初期特有の症状に問題があり、それぞれに支援が必要だが、今の処は比較的軽度の状態の人が多い。今のこの状態の維持の為の工夫や試行を繰り返して、ケアプランに繋いでいって欲しい。特に「ある程度の距離をあるく」習慣を生活の中に組み入れる事で効果が見られるのではないだろうか。

身体面のリハビリだけでなく、大脳の活性化の為の支援にも多角的に取り組んで欲しい。例えば行事等の企画に利用者が加わり、「00さんの提案」を表舞台に出して実行するのも、今なら出来ると思う。

2. 評価結果 (詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：自主評価の改善項目には挙げてないが、職員間のコミュニケーションをよく図り、互いに助け合える雰囲気を作るのが一番と、管理者は願っていて、全くその通りだと思う。</p> <p>2、全体的に見て…：「病気や怪我の無い、今のままの健康な暮らし・マイペースではあるが自立した暮らし」を願っている。「チラシをポケットに入れたまま洗濯に出す人が居るんで、これ見てごらん。模様になって取れん」とぶつぶつ言いながらもせせせと畳む人・赤い三角頭巾も似合っで野菜切り等家事に精出す人等、このホームでの役割や生き甲斐を持てるよう、職員が支援している。他のホームではよく頭痛の種と聞く男性利用者の存在もここではよく調和の取れた間柄のようで、今の段階としては「今を継続させるよう」がキーワードかも知れない。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：改善項目なし。</p> <p>2、全体的に見て…：隣のグループホームにご主人が入居しているという00さんは、殆ど毎日のように会いに行き世話をしているという。本人が実際に言っただろうと推測出来るケアプランの本人・家族の要望欄の記述通りの日常があり、落ち着いた生活が成り立っている。自立度も比較的高く、利用者同士の心の交流や、世話をしたりされたりの関係もよく見られ、その反面、トラブルに発展しがちな状況もあるが、職員がよく見守り、時には間に入って上手く収めているから、今日のような穏やかな日々が成り立っているのだろう。ホームのリビングルーム等の共同空間が広く、居場所も多い。近くのホーム万富の郷他に、開設予定のデイサービスも加われば、又生き生きとした居場所が増えるだろう。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせて入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：ケアプラン作成の時、状況によっては本人の参加を今後考えるよう改善したいと言う事だが、これについては大いに評価出来る。今の利用者の状況であれば、相談の場や方法の工夫で全員の利用者から意見や希望やイエス・ノーを聞く事が可能なのではないかと、今の内に将来の事・過去の事も出来る限り聞き取り、メモしておく、今後これらの記録が生きて来る事もあると思う。</p> <p>2、全体的に見て…：肺気腫の為、在宅酸素を使用している00さんに対しては酸素量チェック等、特別な管理が必要で他にも問題を抱えているが、元気に明るく好きな塗り絵に専念している。職員は00さんの居室前に「00さんの塗り絵コーナー」を設定し、作品を何点も掲げている。この方の塗り絵には「サムイヨー ナニカタベモノナイカー」等、図柄に合わせた台詞入りで、とてもユニークだ。今日もお喋りの間、手は動いていた。この様な「その人の力を見つけ、表に出す」支援を増していきたい。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1、自主評価について…：事情があって遠方で暮らしている為、中々訪問出来ない家族も多く、家族との交流・コミュニケーションは充分ではないと言う。出来る処から改善したいが、当面、撮りためている写真をアルバムにして活用するという改善案は、ホームの歴史・資料にもなる事なので是非実現したい。又、運営推進会議で介護教室開催等でホームの開放を話し合っている。企画に利用者の参加は今の段階なら未だ可能で、出来る事はどんな事でも仲間として加わって貰いたい。このような積極的な取り組みは必ずケアの向上に繋がっていくだろう。</p> <p>2、全体的にみて…：00さんが以前描いた水彩画を地域の文化祭に出品し、家族も一緒に見学に行ったと言う。こういったチャンスを1回でも多く増やし、又逆にホームで作品展を開催して、家族や近隣の人を招待しても良いだろう。このように、ホームと家族・地域の敷居を少しずつ低くしていく努力が、色々な意味合いから、より強い絆を築いていく事になると思う。</p>		